

ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.53 2019年10月6日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

10月に入っても30℃超えとは驚きましたね。おかげでいつもなら9月下旬に同じ場所で咲くはずのヒガンバナが見当たりません。とはいえ、さすがに朝晩の空気はひんやりと引き締まり、青空も高くなりました。前期最後の夜クラス、居合わせた神学生数名を駆り立て、上履きのまま正門前に行き、西に傾いた木星、その東に上弦前の月、少し離れて土星を電線と屋根の隙間から眺めました。天文学は人類の基本だぞ、と説教じみたことばを押しつけながら.. もう秋本番です。

「【主】のみわざは偉大。それを喜ぶすべての人に 尋ね求められるもの。」(詩篇111:2)

校長 関野祐二

● 2019前期授業終わる

夏休み明け6週間で前期授業が終了。新入生13名にとっては、つらくて長い半年間だったことでしょう(後期の新約緒論でゴタイメン。辛さ倍増?)。あれは前期も終わりに近づいた、わが還暦の誕生日午前、それを祝うかのごとくに、某M師が教理史クラスを巻き込んでのチャペル独り芝居(教理史の内容と無関係)。妙な恰好の預言者ヨナ登場に、相方比較宗教クラスの免疫なき新入生諸君は拍手も忘れあっけにとられました(クリスマス降誕劇はここまでやらなくてイイヨ)。さて、今年度後期からの新規聴講生はゼロ。拍子抜けしましたが、それなりに見学者や問い合わせはあるので、3月の入学試験に多くの受験者を期待しましょう。聴講終了者がいた関係で、在校生総数は71名となりました。ところで、支援サポート拡大を話し合う聖契サポート委員会(ようやく名称が決まりました)も回を重ねた9月第四金曜午後、「聖契神学校の色を決めましょう」との発題から、ブランディングということばを覚えました。商品や企業に限らず学校や団体などを、類似する他と区別するための要素だそうです。委員会に同席した卒業生から「神学のブランディングは出来てますよ」と言われ、他校との交わりを深めつつひたすらそれを追い求めてきた自らの歩みを振り返りました。福音の中心軸を明確に、そして違いを認めつつ幅広く他者をリスペクトし協力するとの福音主義本来のあり方。昼夜間交替&単位制という特色を生かしつつ、さらにそれを進めたいです。「聖契神学校の色は深宇宙をイメージする深い青がいいです」と提案しました。

● ジャックとゴーヤーの木?

それは壮観でした。この春、正面玄関右の階段下植え込みから生え上ったゴーヤーは、夏の日差しを浴びてYr部屋をあっという間に飲み込み、ネットを伝って二階のわが校長室を緑のカーテンで覆い、さらには三階の女子寮部屋にも被って、ついに屋上へ。天まで届くジャックと豆の木を彷彿とさせました。道路から見れば、緑の絨毯を屋上から垂らしているよう。台風15号の直撃も、強風が北から吹きつけたので(女子寮ラウンジは窓の隙間から吹き込んで水浸し、ああ)、南面のゴーヤーは無事でした(風の通り道にあった三階の図書室エアコン室外機が転倒)。最初は

収穫にやや悲観的だった植え主も、程なくして始まった大収穫を喜び、毎日2～3個のゴーヤーが二階廊下にお持ち帰り自由で並びました（すぐに完売、いやタダです）。園芸には疎いので、手入れよりも朝の開門時、ぶるさがった実を数えて突っつくのが日課（勝手にはもぎませんヨ）。自然に熟したようで実は、植え主が水や肥料を絶やさなかった結果でしょう。翻って、神学生にはどんな肥料が必要か。適切なみことば、行き帰りの挨拶、いややっぱり赤ペンの応酬ですかね。

● サタン特集と今ドキ鼎談

この夏、期せずして同じ週に二つの取材を受けました。ひとつは某福音月刊誌の、その名もサタン特集。なぜ自分が頼まれたのか、あまり深読みせず出版社本社へ赴き、記者から質問攻め。カバンには、組織神学クラスの「天使論」で特別講義を依頼したY r先生の講義原稿を忍ばせて準備万端（ください！と懇願）。あらためて、信仰初期に読んだ、C. S. ルイス『悪魔の手紙』を味わい、その鋭さに舌を巻きました。サタンとは、虫のような角とネズミのような尻尾を持った、ちょろちょろ動き回る生き物ではなく、私たちの心の隙間に入り込んで神から目を逸らさせる賢い存在。いつか聞いた、ベターをもってベストを阻むのが悪魔の常套手段という金言を思い出します。苦勞して原稿も書き、刷り上がって届いた紙面には、そこかしこに例の姿をした可愛い悪魔の絵。字ばかりではレイアウトが出来ませんから、これもまた良し、と納得したのでした。もうひとつは某季刊誌の「今ドキの神学校事情」という特集。超教派で夜間や通信の授業を持つ三つの神学校代表者が呼び集められ、編集長の司会で語り合いました。初対面でしたが、驚くほど向いている方向が共通していたのは、この時代にあって同じ問題意識を持つからでしょう。神学校に学生を集める秘訣（俗な言い方でゴメンナサイ）は授業の質を上げること、と発言した時がいちばんの共感を得ました。そう、今ドキだからこそ献身者が現場で求められるスキル（もちろん霊性も含めてのこと）を徹底して磨きたいのです。継続教育〇〇年保証付き、なんて卒業後のサポートも充実できたら素晴らしい、そんなビジョンを出席者と帰りの電車で語り合いました。

● オープンキャンパスとセミナーへどうぞ

今年もオープンキャンパスの季節到来。10月26日（土）午前10時のチャペルから始まります。後期から新たに旧約緒論を担当するY r師のチャペルメッセージ後、ド定番の新約緒論と霊性の神学クラスを公開（辛口と甘口の組み合わせ）。学生会に昼食会をお任せした後、午後の特別講演会には、「被造物管理の神学」で奮進中のN師（卒業生で元教師、本校を励ます恩師）を7年ぶりにお迎えします。昨年のルカ文書講演同様、今回の特別公開講演会（無料）を皮切りに、続く土曜日全7回を「被造物管理の神学特別セミナー」（6回は有料）に仕立てました。トピックは聖書のストーリーにおける死後の世界の希望。乞うご期待、詳しくは別紙ご参照くださいませ。レントを味わう霊性と黙想セミナーの受付も始めますよ。定員10名ですからお早めに。そうそう、神学校玄関入って正面の白壁に、赤城バイブルキャンプから移設した絵画を掛けました。イエスの洗足を描いた作者持ち前のブルーが基調。夜には外からも目立ち、一見の価値ありですよ。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生71名の後期の学びと健康や霊性、教職員15名の働きが支えられるように。
- ・ 聖契サポート委員会の働き。今後の建物改修／新築計画を含む神学校運営が、多くの方々の祈りと支援、定期的な献金サポート等の拡大により、安定的に守られ推進されるように。